

上下流の人々をつなぐ 筑後川源流の保全活動 ～植樹交流で下笠ダム湖のある地域を心の故郷へ～



大分県日田市
特定非営利活動法人 下笠ダム湖と森の会 / 日田市、福岡市

手づくり郷土賞について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

下笠ダムは、筑後川水系津江川の上流、熊本県阿蘇郡小国町と大分県日田市中津江村にまたがって建設省（現在国土交通省）によって建設された多目的アーチダムで、1974年から管理が行われています。建設当時、ダム反対派が建設予定地を占拠して争い、その後の公共事業のあり方に一石を投じた「蜂の巣闘争」

闘争」で全国的に有名になり、その後の公共事業のあり方について見直されるきっかけとなりました。

現在は、ダム湖に映る桜並木、鮮やかな新緑や紅葉など豊かな自然の中、ダム湖を活用したレジャーやダム湖を見渡せる蜂の巣湖公園（日田市）など賑わいをみせています。



その後の公共事業のあり方に一石を投じた「蜂の巣闘争」※写真は蜂の巣城



秋の下笠ダム 四季折々の景観を楽しむことができる場所

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

平成 15 年頃、日田郡日中津江村は、日田市と郡部の合併が話題になり始め、地元住民の間で、これからの行政の財源緊縮、また高齢化や人口減少など生活への不安が深刻化しており、強い危機感から、「地元野田地区を活性化したい、地域を自分たちで守りたい」との思いで、有志 30 名により、平成 19 年 4 月に「NPO 法人 下笠ダム湖と森の会」を立ち上げました。

その活動理念は、下笠ダムという地域資源を活か

し、地元の力で地域を美しくする活動を行い、広大な交流活動として、上下流交流（山間部・都市間交流）を行うことです。

ダム完成の 15 年後の昭和 63 年より開催している「蜂ノ巣湖桜まつり」は、平成 14 年より新たに福岡市水道局及び市内子ども会連合会（交流団）を上下流交流のパートナーとして迎え、今年で 30 回目となりました。



第 16 回蜂ノ巣湖桜まつり（平成 15 年）の福岡市交流団との交流会の様子



第 30 回蜂ノ巣湖桜まつり（平成 30 年）地元みんなの力により 30 回継続



福岡市城南地区・野多目地区の子供たちと地元の中津江っ子クラブとの交流

3 活動の成果や波及効果等

桜まつりでは、平成 14 年から、福岡市城南地区・野多目地区の子供たちと地元の中津江っ子クラブとの交流が図られるようになりました。学習要素の部分がある桜まつりでは、上下流の子供たちに水の大切さや森の大切さを理解してもらうことができおり、毎年 300 名を超える参加者となっています。

また、桜まつりで実施している植樹活動では、これまでに約 4,000 人が活動に参加し、8,000㎡のダム湖畔（国用地）に約 800 本の山桜などを植樹したり、自身の看板設置によるオーナー制度により、都会の子供たちが再度この地を訪れるきっかけとなっているなど、広域の地域交流が、ダム湖周辺の維持管理に寄与しています。



植樹活動の様子。地元は、大きく育つように気をつけながら日々管理しています。

●● 喜びの声 ●●



受賞者

特定非営利活動法人 下笠ダム湖と森の会
代表理事 川津 桂男

コメント

今回の受賞は、これまでの私たちの活動と、行政との連携を認めて頂いた成果だと思えます。これからも地域を守っていくという強い思いを持って、筑後川源流の下笠ダム湖周辺の保全活動を通じ、この地域が心の故郷（ふるさと）となるよう交流し続けたいと思います。

活動の内容

- ・福岡市と地元による上下流交流活動（植樹及び草刈り管理、竹林整備とたけのこ掘り）
- ・ダム湖の水質調査、ダム周辺環境監視活動

活動の経緯

- 平成 19 年 団体設立（昭和 63 年活動開始）
- 平成 28 年 一般財団法人日本ダム協会表彰
- 平成 30 年 第 30 回蜂ノ巣湖桜まつり開催

所在地

大分県日田市の中津江村栃野 5333

活動主体及び連絡先

特定非営利活動法人 下笠ダム湖と森の会
(0973-54-3922)

対象となる社会資本

下笠ダム
※管理者：国土交通省筑後川ダム統合管理事務所



手づくり郷土賞について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編